

2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<p>カリキュラム・マネジメントの充実に努め、教育活動の質の向上を図る。その中で児童の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を高めていく。</p> <p>学んだことの確実な定着を目指し、繰り返しの学習や学習習慣の定着を図るとともに、育成すべき資質・能力を明確にし、個に応じた指導を行う。創意工夫ある教育活動により児童に学ぶ喜びと学びに対する期待をもたせる。また、生涯教育につながるよう、「学び方を学ぶ」ことを重視する。</p>

授業改善の重点
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能の習得およびそれらを活用する学習活動を充実させる。そのことにより主体的に学習に取り組む態度と問題を解決するために必要な力を育む。 ・主体的に課題を追究する活動を重視する。また、ICTの活用を図り、協働的で双方向型の授業の充実に努めることを通して、論理的思考力を身に付けるための指導の充実に努める。

各教科の指導の重点	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点		
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを表現したり、話し合いの中で分かりやすく説明したりするなど、必要な言葉や表現を用いて表現する場面を積極的に作る。また、発達段階に応じた語彙を増やす活動を行う。 ・既習事項を継続的に振り返ったり、他教科とも関連付けたりすることで学習内容の定着を図る。 ・児童が必要とする言語活動での効果的なICTの活用を工夫し、個別最適な学びにつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽的な知識・技能を深めるために、常時活動において題材と関連付けた音楽的活動を、個に応じた、無理なく参加できるような取組の充実に努める。 ・みんなで一緒に合わせる活動では、協働して曲を仕上げていく上で、楽しく無理なく取り組むことができることに重点を置き、実態に合った選曲と、 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な事象に目を向け、自ら問題や課題を見出し、解決しようとする態度を育てる。 ・単元毎に課題に合った方法で調べたり、まとめたことを発表する方法を工夫したりして、多様な学習過程を経験させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいに応じた効果的な授業の組み合わせと資料提示の仕方を工夫する。(一枚絵・紙芝居・実物や写真・映像・提示の工夫等) ・振り返りの時間を十分に設定し、道徳の時間だけでなく、日常生活にも生かそうとする態度を育てる。 		
	社会科	図工科	特別活動の指導の重点	外国語活動(3・4年)の指導の重点		
	<ul style="list-style-type: none"> ・見たり聞いたりしたことや調べて分かったことから、新たな疑問や課題に子供達が気づき、学習に意欲的に向かえるような導入の工夫を行う。 ・教科書や資料集だけでなく、ICT機器も効果的に活用し、問題の解決に向けて必要な情報を調べたり、分かりやすく表現したりする力を身に付けさせる。 ・ICT機器を活用して意見を共有することで、問題や課題に対する多様な関わり方に気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形活動における思考力、判断力、表現力を育成するために、つくり、つくりかえ、つくるといった学習課程を重視する。そのため、各学年の発達の段階に応じた題材設定や、児童一人ひとりが個別に適した選択ができるような材料、手立てを充実させる。 ・造形遊びや鑑賞の学習では、協同して制作する活動を通して、互いのよさを認め合う態度を育てる。 			<ul style="list-style-type: none"> 望ましい集団活動を通して、活動の目標を全員で作成し、その目標について全員が共通理解をもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションポイント(笑顔、はっきりした声、アイコンタクト、ジェスチャーなど)を意識させる。十分に練習したり、チャンツ等で慣れ親しんだりした後に発話させるようにする。
	算数科	家庭科				
	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の場面を図や数直線など多様な表現方法で考えさせ、解決の過程を大切にしたり、根拠をもち筋道を立てて説明したりできるようにさせる。 ・ペーシックドリルや計算アプリ、四則計算ミニプリントを活用し、継続的に基礎基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康で豊かな衣食住生活に関する課題を解決する力を養い、協同的な活動を通して実践的な工夫を生み出そうとする態度を育てる。 ・調理実習や裁縫など、実技内容に関する内容では、動画教材を積極的に活用し、安全面や技能向上につながるよう指導する。 				
	理科	体育科				
	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な問題解決となるよう、自然事象や生活経験とのかかわりを重視して、問題を見だし、考えをもたせるようにする。 ・観察、実験においてその目的を明確にすることで、「何のため」かを考えさせるとともに、知識・技能の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が技能のポイントを意識し、自己の向上を意識できるように練習に取り組めるような環境を作る。(掲示物、映像資料等) ・運動への苦手意識をもたせないようスモールステップで安心して運動に取り組める環境を設定する。(練習の場やルールの工夫など) 				
	生活科	外国語科(5・6年生)				
	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の人や自然とのかかわりを重視して活動を設定する。 ・振り返りの活動として、伝え合い交流する場を設定し、言葉などによる表現活動を大切に作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャンツやリスニングを通して、英語に慣れ親しむ機会を増やす。 ・自分から英単語調べができるようクロームブックを活用し、興味がある単語をすぐに調べることができるようにする。 				

本校の授業改善に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に、課題を見付け、課題を解決していく問題解決型の授業の充実に努める。 ○児童が獲得した知識・技能を活用させる学習活動を充実させる。 ○体験的な授業を取り入れ、他者との交流活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを利用するなどの指導法を工夫する。 ○校内研修を設定し、教員の指導力向上を図る。 ○多様な表現活動を取り入れる。(模造紙、新聞、ポスター、ICT機器、パワーポイントなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の実態を把握し、実態に合わせて指導内容に柔軟性をもたせるようにする。 ○少人数指導委員会を指導や評価の方法について共通理解し、指導に生かす。
-------------	--	---	--